

## 著者紹介

### 丸川 哲史 (まるかわ てつし)

1963年和歌山市生まれ。

2002年一橋大学大学院言語社会研究科博士課程修了。2007年同研究科にて博士号(学術)取得。

現在、明治大学政治経済学部／教養デザイン研究科教授。専攻は東アジアの思想・文化。

著書として、『台湾、ポストコロニアルの身体』(青土社、2000年)、『リージョナリズム』(岩波書店、2003年)、『冷戦文化論』(双風舎、2005年)、『竹内好 アジアとの出会い』(河出書房新社、2010年)、『台湾ナショナリズム』(講談社、2010年)、『魯迅と毛沢東』(以文社、2010年)、『思想課題としての現代中国』(平凡社、2013年)、『魯迅出門』(インスクリプト、2014年)、『阿Qの連帯は可能か?』(せりか書房、2015年)など。

訳書として『ジャ・ジャンクー「映画」「時代」「中国」を語る』(ジャ・ジャンクー著、佐藤賢との共訳、以文社、2009年)、『中国にとって、農業・農村問題とは何か?』(温鉄軍著、作品社、2010年)、『脱帝国 方法としてのアジア』(陳光興著、以文社、2011年)、『毛沢東と中国(上・下)』(銭理群著、鈴木将久、羽根次郎、阿部幹雄との共訳、青土社、2012年)などがある。